

平成30年仕事始め式  
吉野復興大臣ほか年頭訓示

(平成30年1月5日(金) 10:15～10:23 於) 共用220会議室)

1. 発言要旨

(吉野大臣) 皆様、新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願いを申し上げます。

平成30年の年始に当たり、一言申し述べます。

東日本大震災の発災、そして福島第一原子力発電所事故より7度目の正月を迎えました。地震・津波被災地域では、生活に密着したインフラ復旧はほぼ終了し、住まいの再建も今春までに9割が完成する見通しでございます。復興は一步ずつ着実に進展をしております。

福島における原子力災害被災地域でも、インフラ・生活環境の整備の進展に伴い、帰還困難区域を除くほとんどの地域で避難指示が解除され、福島の復興・再生に向けた動きが本格的に始まっております。

避難されている方々の人数は約47万人から8万人に減少しておりますが、いまだに多くの方々が避難生活を続けながら、このお正月を迎えられたということをお忘れではありません。改めて被災者の皆様に思いを致し、気を引き締めて職務に専念していただきたいと思っております。

発災から7年を迎える本年は、復興の「総仕上げ」と福島の「本格的な復興」に向けて道筋をつける重要な一年であります。引き続き被災地の声に耳を傾け、復興のステージの進展に応じて生ずる地域や個人の課題に迅速かつ適切に対応してまいりたいと考えております。

年末に取りまとめた平成30年度予算案は、「被災者支援に携わる方々への支援」や「風評払拭のための放射線に関する情報発信」など、現場で生じている課題、特にソフト面の課題に的確に対応するものとなっております。これらの施策を円滑に実施できるよう、次の通常国会において予算の成立に向けて全力で取り組んでまいります。

また、生業の再生に向け、被災事業者の販路開拓や人材確保などへの支援に引き続き取り組む考えであります。震災支援機構の支援決定期間を延長する議員立法についても、しっかり対応してまいります。さらに、「復興五輪」や釜石市でも開催されるラグビーワールドカップの成功に向けた取組も、より一層推進してまいります。

復興・再生の歩みには、被災者の方々自らの取組や、被災自治体、

企業、NPO、ボランティアなど様々な関係者の努力があったことも忘れてはなりません。復興の主役は、ふるさとの復興に向け日々困難に直面しながら現場で取り組んでおられる方々です。職員の皆さんにおかれても、引き続き、省庁の縦割りを廃し、現場主義を徹底し、被災者に寄り添いつつ、スピード感を持って柔軟な対応を心がけ、できることは全てやるという復興庁マインドの実践を心がけてください。

「東日本大震災からの復興なくして日本の再生なし」、この言葉を胸に東北を必ず復興させ、日本の再生につなげるという強い気持ちを持って復興を加速化させるべく共に頑張ってください。

これをもちまして年頭の訓示といたします。ありがとうございます。

(浜田副大臣) 皆様、明けましておめでとうございます。

本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。

本年は、東日本大震災から丸7年を迎える年であります。福島では避難指示解除が進み、本格的な復興・再生に向けた取組が着実に進んでおります。その中でも、医療・介護環境の充実が急務であります。避難指示解除区域等での介護サービス提供体制構築のため、年末に決定されました来年度予算においても、大幅拡充を勝ち取っていただきました。ありがとうございました。

また、福島イノベーション・コースト構想の推進も重要でございます。昨年11月に行いました法定分科会では、未来を担う人材の育成についての声が地元から数多くありました。こうした声なども踏まえ、関係機関ともよく連携し、構想の実現に取り組んでまいります。本年も現場主義を徹底し、被災者に寄り添いながら、共に職務に当たってまいります。

風評と風化、復興はこの二つの風との戦いと思っております。是非この二つの風に復興庁が団結して取り組んでまいります。

以上でございます。

(あきもと副大臣) 新年おめでとうございます。あきもと司でございます。

復興庁のこれまでの歩み、職員の皆様の御尽力に改めて敬意と感謝を申し上げます。一方、復興をなし遂げるまでの10年ということになると、まだまだ気を引き締めて、しっかりと現場に寄り添い、また、風評被害とも戦っていかなければならない、こういった残りの3年間になろうかと思っております。引き続き皆様の御尽力を期待したいと思います。

また、私も昨年は福島第一原発、石巻市、女川町と現地の視察をさせていただきました。特に福島第一原発においては、現場をより多くの国民の皆様を知っていただくことが、風評被害の払拭にもつながっていくのではないかと、という感想を持ちました。是非多くの皆様にあの現場を見ていただき、またメディアの皆さんにも正しく現場の様子を国民に対して、また世界に対しても情報発信をしてもらうことが大切なんだということを改めて感じたところでございます。

また、復興も確実に進んでいるわけでございますけれども、私が訪問した雄勝地区などはまだまだ多くの取組が必要というところでございまして、復興に当たりましては、地域差があるということも現実だと思えます。このような点も踏まえて、被災地の皆さんに寄り添う、その思いで今年一年また皆様の御尽力を御期待したいと思えます。

改めてチーム吉野の一員として吉野大臣を先頭に、私もまた全力をもって頑張ってまいりたいと思えますので、どうぞまた今年一年の皆様共々の歩みを改めてお誓いを申し上げ、一言新年の御挨拶とさせていただきたいと思えます。

本年もよろしく申し上げます。

(以 上)